

A Japanese Folktale

MAYA, THE CRAB

Amami Ohshima's Version of "The Battle between
Monkey and Crab" (Saru-Kani Gassen)

あまみおおしまのサルカニがっせん

カニのマーヤ

Retold by KAZUKO INADA
Translated by TADAAKI MIYAKE
Illustrated by NAHO INADA

いなだ かずこ:さいわ
みやけ ただあき:やく
いなだ なほ:え

贈る絵本 第1号

Once upon a time, there lived a Crab called Maya.

One day, when Maya was washing in the stream, what did she see
but a peach seed floating down the stream?

Maya was delighted and brought it home with her.

むかし、あるところに、かにのマーヤが すんでいた。
あるひ、マーヤが、かわで せんたくしていたら、
もの たねが、ながれてきた。
マーヤは、これはいいもん みつけたと、
たねをもって いえにかえた。





Putting the seed in the earth, Maya sang:
Oh, my treasure, peach seed!
Today I plant you, so you will come out tomorrow!
Grow big the day after.
On the fourth day, you will bloom.
On the fifth day, you'll bear fruit.
On the sixth day, the fruit will ripen.
And on the seventh, I'll come to pick the peaches.



わたしのだいじな もものたね
きょう うえたら あした はえろ
そして あさっては おおきくなれ
よっかめには はなさけ
いつかめには みがな一れ
むいかめには うれてくれ
なのかめには わたしが もぎに行くから
と うたって つちにうめたところが、
マーヤのいった とおりに
すぐにめがでて、きがのびて、



At once the peach plant came out, grew into a big tree,
which bloomed and bore fruit. The fruit ripened so soon.
With a basket Maya came to pick them.

はながさいて、みがなつた。
なつたと おもつたら、うれてきた。
マヤは、かごをもつて、みをもぎに いったが、
いちばんひくいえだの ももがとれただけ。

But alas, Maya was too short to reach the branches.

Maya began to cry, when a mountain Monkey came skipping along.

“What are you crying for, oh, Maya?”

“I am too short to reach those fine peaches.”

“Leave it to me, oh, Maya. I will pick them down for you. Bring me another basket, for there are so many peaches.”

Maya brought another basket.

“I’ll have one basketful for myself,” said the Monkey and he climbed up the tree with two baskets.

たかいところには、てが とどかないので ないていた。

そこへ、やまのさるが、ほいほいと やってきて たずねた。

「マーヤ、どうして なくんだい？」

「わたしは、きに のぼれないから、ももがとれないの」

「そうか、なくな。おれがとってやる。

かごを もうひとつ もっておいで」

マーヤが、もひとつかごを もってくると

さるは「おれにも、かごいっぱい よこせよ」といった。

それをもって するするっと きにのぼり、



The Monkey filled his basket with ripe peaches with two or three green ones on top.
Then he filled Maya's basket with green peaches with two or three ripe ones.


“Here is your basket with ripe peaches, you see?”

Mine are all green. So long for now.” So saying, the Monkey went skipping home in the mountain.

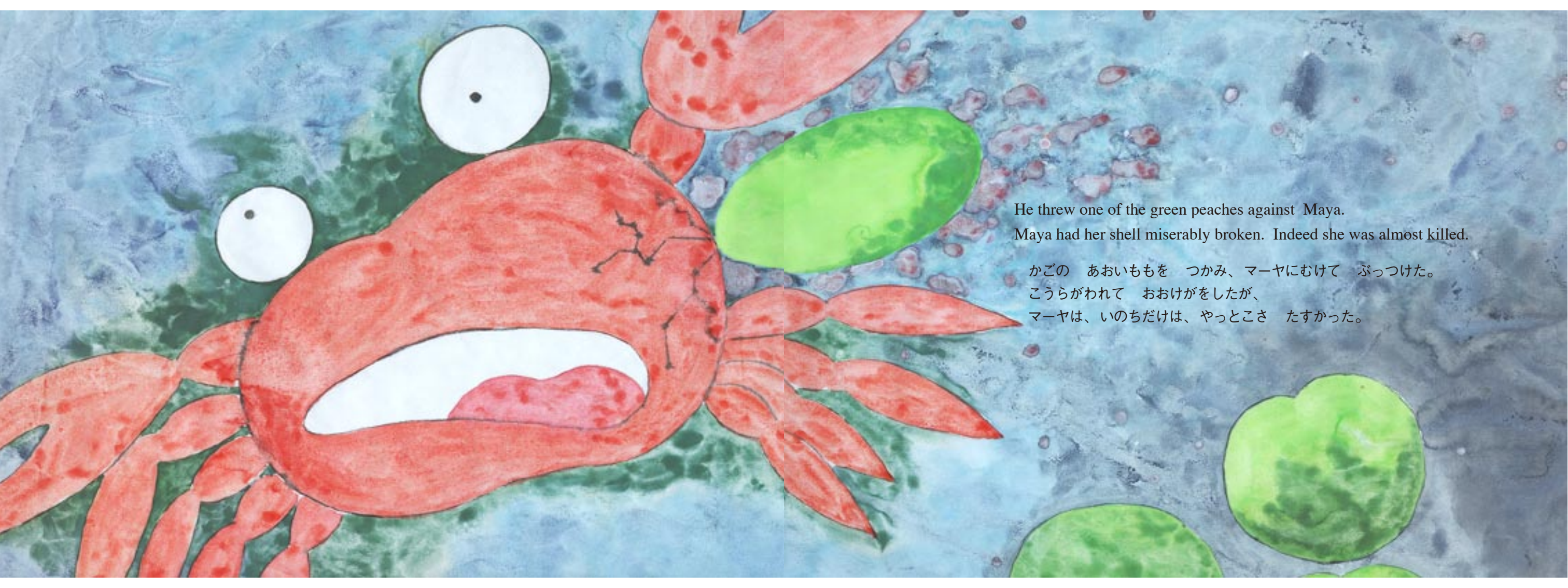
However, looking into the basket, Maya easily found out what her friend had done and ran after the Monkey.

“Monkey, Monkey, pick me ripe peaches. I'd like to eat sweet fruit, too.”

The Monkey turned round and said, “Maya, you stupid Crab, who can't even climb a tree. You shall have this.”



それから、じぶんのかごには うれたももをつめて、
いちばんうえだけ、あおいのを ふたつか みつつのせた。
マーヤのかごには あおいのを つめ、
うえだけ うれたのを のせて わたし
「ほら、マーヤのは うれたのばかり。じゃあね」
というど、おどりながら さるはすみかに かえっていった。
マーヤが、かごをよくみたら、さるのうそが
すぐばれたから、あわててさるを おいかけて、こういった。
「さるさんの うそつき。
わたしにも うれたあまいのを とってよ」
さるは ふりむくと
「もんくがあるなら、これでもくらえ」といって、



He threw one of the green peaches against Maya.

Maya had her shell miserably broken. Indeed she was almost killed.

かごの あおいももをつかみ、マーヤにむけてぶっつけた。
こうらがわれて おおけがをしたが、
マーヤは、いのちだけは、やっとかさ たすかった。

It took Maya a long time to have a new shell formed and be able to walk again.
Maya decided to revenge herself on the Monkey.

With a lunch box, Maya started for the Monkey's house in the mountain.

On the way Maya met with the Uncle Dove singing.

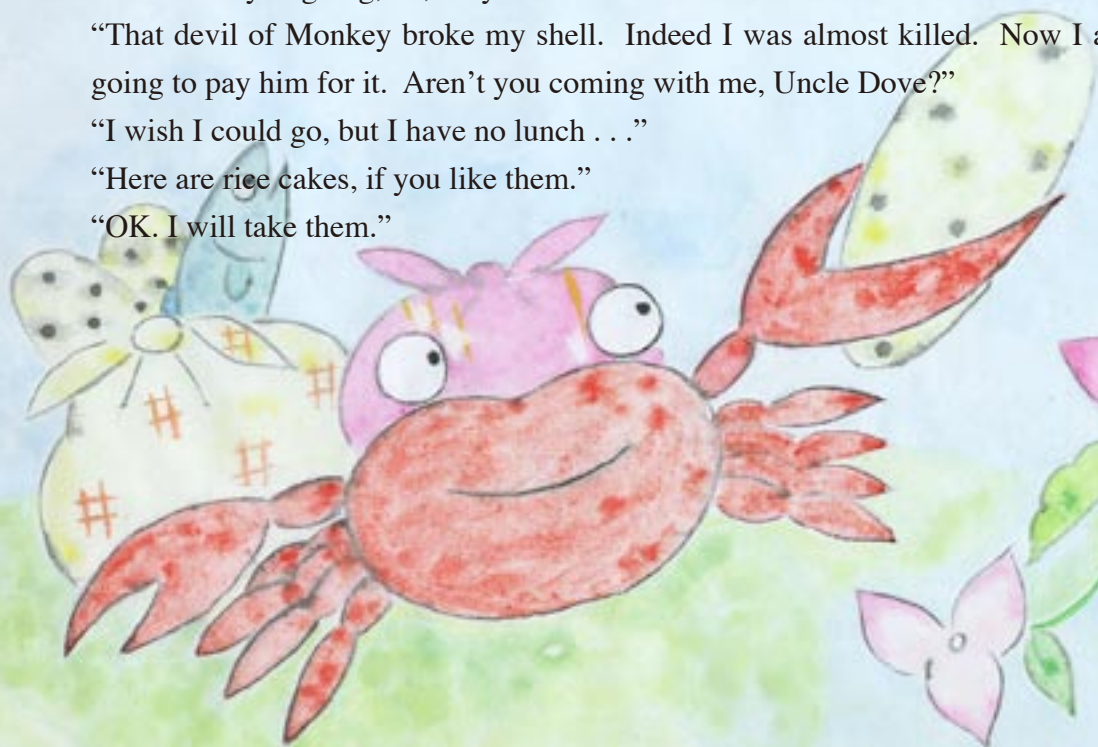
“Where are you going, oh, Maya?”

“That devil of Monkey broke my shell. Indeed I was almost killed. Now I am going to pay him for it. Aren't you coming with me, Uncle Dove?”

“I wish I could go, but I have no lunch . . .”

“Here are rice cakes, if you like them.”

“OK. I will take them.”



やがて、つきひがたって、あたらしい ころらがはえ、
やっと あるけるようになったマーヤは、
さるたいじに いこうと おべんとうを もって、
さるの すみかを たずねていった。
マーヤは、とちゅうで
はとのおじさんが、うたっているのに であった。
はとは たずねた。

「おや、マーヤ、いったいどこへ いくんだい」
「わるいさるに せなかをわられて、
もうちょっとで ころされる ところだった。
そこで、かたきうちに いくところよ。
おじさんも いっしょに いってくれない？」
「ああ、いきたいが、ひるめしがないので……」
「ここに、ながもちがあるから、あげる」
「そいじゃあ、おれもついていく」

Maya and Uncle Dove went on for a while, when they met the Centipede.

“Where are you going with Uncle Dove, oh, Maya?”

“We are going to punish the Monkey.”

“I wish I could go with you, but I am worried about my lunch.”

“You shall have these rice balls.”

“OK. I will take them.”



マーヤと はとが、みちを ぐんぐん すすんでいくと、
むかでに であった。

「マーヤ、マーヤ、はとをつれて どこへいく」

「わるいさるの すみかへ かたきうちに」

「それじゃあ、わたしもついて いきたいけれど、
ひるのごはんが しんばいでね」

「ここに、べんとうがあるから、あげる」

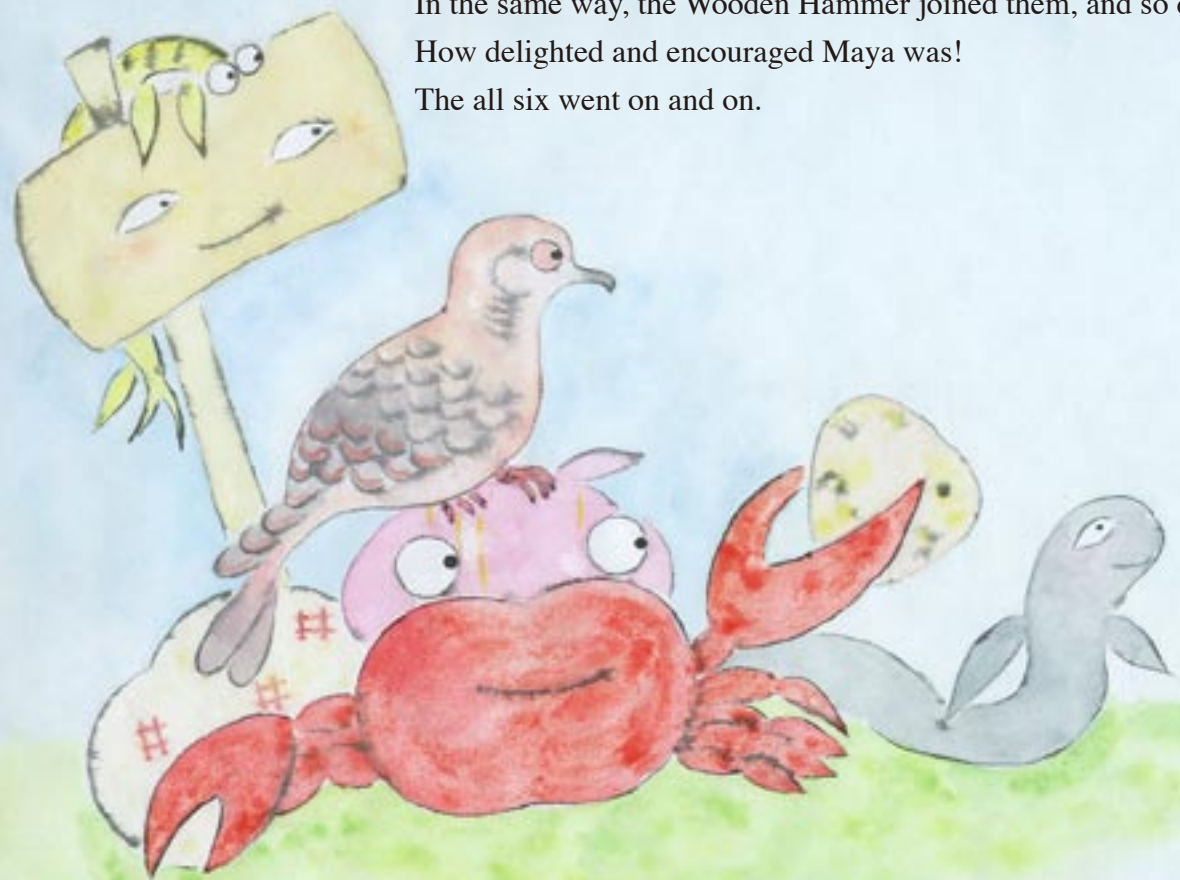
「そんなら、わたしもついていく」



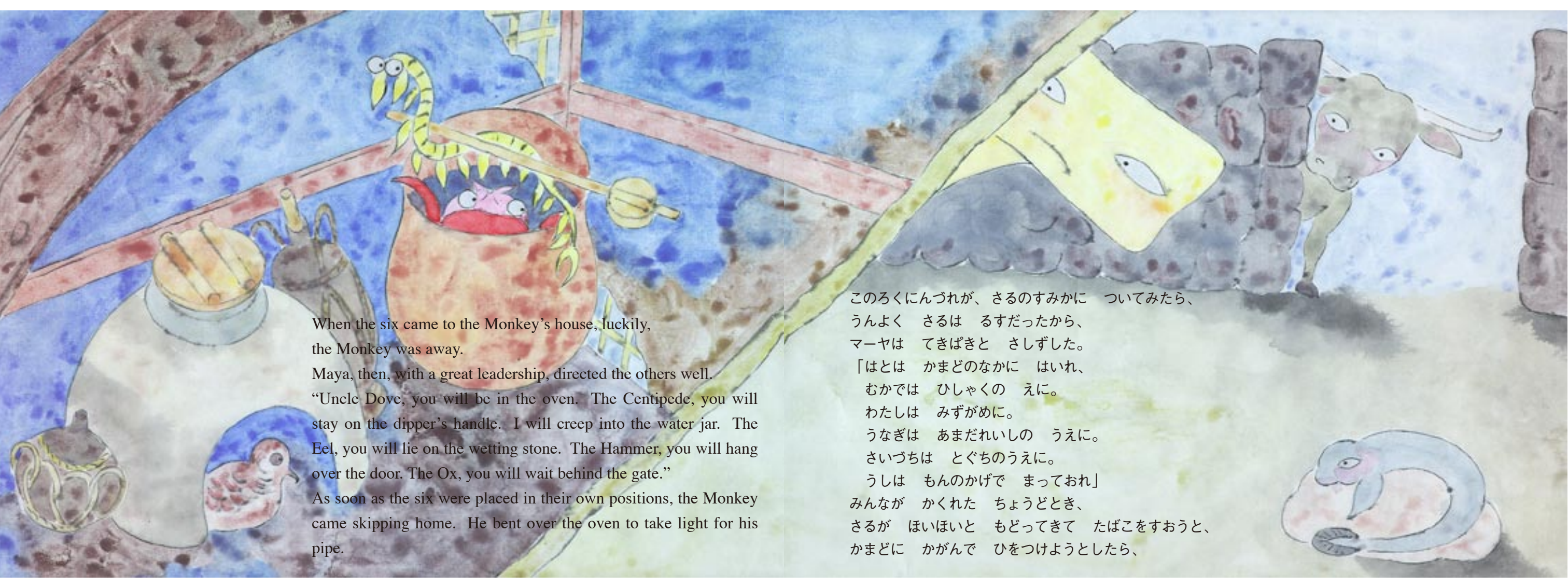
マーヤと はとと むかだが、みちを ぐんぐん すすんでいくと、
かわのところに うなぎがいた。
うなぎも、はなしをきいて、さるたいじに いくというので、
いっしょに さるのすみかを たずねていった。

Maya the Crab, Uncle Dove and the Centipede went on for a while,
when they met the Eel by the river side.
The Eel, too, on hearing Maya's story, agreed to go with them.

In the same way, the Wooden Hammer joined them, and so did the Ox.
How delighted and encouraged Maya was!
The all six went on and on.



やがて さいづちと うしが、くわわって、
みかたが ろくにんになったので、
マーヤは げんきがわいて、ぐんぐん みちをすすんでいった。



When the six came to the Monkey's house, luckily,
the Monkey was away.

Maya, then, with a great leadership, directed the others well.

“Uncle Dove, you will be in the oven. The Centipede, you will
stay on the dipper's handle. I will creep into the water jar. The
Eel, you will lie on the wetting stone. The Hammer, you will hang
over the door. The Ox, you will wait behind the gate.”

As soon as the six were placed in their own positions, the Monkey
came skipping home. He bent over the oven to take light for his
pipe.

このろくにんづれが、さるのすみにかについてみたら、
うんよく さるは るすだったから、
マーヤは てきぱきと さしずした。
「はとは かまどのなかに はいれ、
むかでは ひしゃくの えに。
わたしは みずがめに。
うなぎは あまだれいしの うえに。
さいづちは とぐちのうえに。
うしは もんのかげで まっておれ」
みんなが かくれた ちょうどとき、
さるが ほしいと もどってきて たばこをすおうと、
かまどに かがんで ひをつけようとしたら、

Uncle Dove suddenly started.
The Monkey was blinded by the ash.

はとが はばたいて とびだしたので、
さるは はいをかぶって めがみえなくなった。





The Monkey hurried to the jar to wash his eyes, and was stung by the Centipede when he touched the handle. Then he was pinched on the finger by Maya, the Crab. The Monkey hurriedly tried to go out of the house, and slipped on the Eel lying on the wetting stone.



あわてた さるが みずがめにいき、
ひしゃくをとって、みずで めをあらおうとしたら、
むかでに さされ、おまけに、
マーヤのはさみで ゆびをはさまれた。
あわてた さるがいえを でようとしたら、
あまだれいしの うなぎをふんで すべりこけた。

Over the Monkey fell the Wooden Hammer,
and he had his back broken.

そのうえに さいづちが ちょうど おちてきたので、
さるは せぼねを おられてしまった。



The Monkey desperately tried to escape and creep out,
but was given the final blow by the Ox.

That's the end and red is the Monkey's bottom.



それでも ようよう はいながら にげていったが、
もの ところで、うしに つので つかれたんだと。

むかしは そればっか、さるの おしりは まっか。





フィリピンに、日本の「猿かに合戦」によく似た「猿かめ合戦」があるのはうれしいことです。ずるい猿を、弱者が知恵を使って退治する点は共通していますが、フィリピンの話は、より力強く、16世紀以来、外国に支配された民族の悲しみと、それにめげないエネルギーが感じられます。この度は、日本本土より少しフィリピンに近い奄美大島の話を原^{もと}にして書きました。この絵本によって、黒潮の流れでつながった、二つの国民に新しい友情と連帯感が芽生えますように祈っております。

稲田和子（山陽学園短期大学教授）

Dear Reader,

How did you like the story of Maya, the Crab?

You may wonder if you have heard a similar story somewhere. Yes, in the Philippine version of this story, the tortoise plays the part of the crab. The folktale is so common all over the world. Especially the Philippines and Japan have long been connected with each other since the ancient times through “Kuroshio”, the warm Black current.

The folktale tells us many things, above all, what human beings are, even if the characters of the story are often animals or birds. It also encourages us in many ways. The faster don't always win the race and the stronger don't always beat the weaker. This, too, is quite common all over the world.

We hope as many Philippine children as possible will read Maya, the Crab, and the story will be of some help to unite the two countries and to promote mutual understanding and friendship, and finally the world peace.

Yours sincerely,

Tadaaki Miyake 三宅忠明（岡山県立大学教授）

●お礼とおねがい

この度は、「子ども達に絵本を贈る運動」にご参加いただきありがとうございます。

私たちは、心のふれ合う機会が少なくなった日本の子ども達と、絵本を手にする機会の少ない開発途上国の子ども達のために、今後も継続的な活動を展開したいと思っています。

この絵本をお子さんの意志で、フィリピンの子ども達に贈っていただくよう保護者の皆様にご指導いただければ幸いです。

大切なものだからこそ、心をこめて人にプレゼントすることの尊さを知ってもらいたいです。

子ども達の明るい未来のために…。

「リコーダーをおくる会」代表 黒住宗道



●贈る絵本シリーズ 第1号「カニのマーヤ」

“MAYA, THE CRAB” retold by Kazuko Inada. Text © 1996 Kazuko Inada, Tadaaki Miyake. Illustrations © 1996 Naho Inada.

1996年3月1日発行／編集・発行 アルコプランニング 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町2-6-32 086(430)3350

この作品を許可なくして転載・上演・放送しないこと／万一不良本がありましたら、お取り替えいたします。

印刷 コーホク印刷株式会社／製本 日宝総合製本株式会社

Published by Alko-Planning, Okayama, Japan. Printed by Kohoku Printing Co.,Ltd.,Okayama, Japan.

定価 1,050円（本体1,000円＋税）送料別